



園長便りひがし

令和7年5月23日
宮崎ひがし幼稚園
文責園長 花宮 伸利

参観日・PTA 総会ありがとうございました

本年度最初の参観日がありました。子ども達の様子はいかがだったでしょうか。お家の方が来られるとがぜん張り切る子もいれば恥ずかしがっていつもより消極的になる子、お家の方から離れなくなってしまう子、様々ですね。少しずつですが、子ども達の成長を感じ取ることができましたら、ありがたいです。

そのあと、学年別に PTA 総会が開かれました。本来ならばすべてのお家の方に集まっていたくのがよいのですが、駐車場の関係で学年別となっています。本年度の PTA 役員の方々1年間、よろしくお願いします。

会長・・・仁田脇	久儀	様
副会長・・・松本	朋子	様
副会長・・・牧野	直子	様
監査・・・黒木	良美	様
監査・・・中原	理奈	様

食育の取組

ひがし幼稚園では食育活動に積極的に取り組んでいます。園の畑にはその季節に応じてミニトマト、ダイコン、ニンジン、ジャガイモなどを植えて収穫してみんなで食べています。成長期の子どもに対する食育は、子どもたちが一生涯にわたって健やかに生きていくことができるよう、その基礎をつくるために行われるものです。さらに、食べ物を大切にする心や食事のマナーなどの社会性も身につけていきたいです。



やる気の種

ほめることを動機付けとして使う親は、子どもの中にほめられて動く種を植えています。子どもは、ほめられて動くようになります。叱られて動く種を植える親もいます。叱らないと動かないから叱るのではなく、親が叱って動かす種を植えたから、子どもはそうしているのです。

子どもの動機付けに、物を与えることもあるでしょう。それを動機付けの道具に使うと、いざれ子どもは、お小遣いをもらうためにお手伝いをするようになります。お小遣いをもらえないとやらない、またやってもお小遣いがもらえないと腹を立てるようになります。

ほめることも叱ることも、物やお金を与えることも、すべて外からの働きかけで、外から子どもをその気にさせようとする行為です。本当のやる気は外からは湧いてきません。本当のやる気は、子ども自身の中から湧いてくるものです。親は子どもの中に、子ども自身の中から湧き出る、**やる気の種**をまくことができるのです。そのやる気の種は「**人の役に立つ喜びの種**」です。この動機付けの種を植えることで、子どもは一生、健全なやる気を保つことができます。

ではどうやって「人の役に立つ喜び」を教えられるのでしょうか。子どもが手伝いをしてくれたら、子どもをほめないことが大切です。「えらいぞ。」というほめ言葉ではなく、子どもが手伝ってくれたことに感謝し、喜んでください。子どもが親のために働いたときに、親がどう感じたか、気持ちを教えてあげてほしいのです。「お父さん助かったよ。」「お母さんうれしかった。」という具合に自分の働きが親にどのような影響を与えたかを教えてあげてください。子どもがお茶碗を並べてくれたとき、「お母さん、この時間忙しくて、あなたがいてくれるから助かるわ」という具合に、親がどのように喜んでいるか、感謝しているかを伝えます。

子どもにとって親は絶対です。とても大きな存在です。その大きな存在に対して、自分が役に立てる。これは喜び以上のものがあります。自分をそんな存在として受け取ることができるのです。子育てとは、親が自分の気持ちをいかに言葉豊かに伝えるかを学ぶチャンスでもあります。そのとき親は子どもに「**人の役に立つ喜びの種**」を植えることができるのです。